

## 2 分析結果の要約

### 分析 1

#### 「基礎・基本」定着状況調査（教科の学習内容の定着状況）

##### タイプⅠ

- 小学校全教科及び中学校は理科を除く3教科でおおむね定着している。

##### タイプⅡ

- 小学校国語、理科及び中学校数学、理科において、知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力などに課題がある。

#### 全国学力・学習状況調査（教科に関する調査の結果）

##### 主として「知識」に関する問題（A問題）

- 小学校、中学校ともすべての教科において、平均正答率が全国平均を上回っている。

##### 主として「活用」に関する問題（B問題）

- 小学校、中学校ともすべての教科において、平均正答率が全国平均を上回っている。
- 「知識」に関する問題（A問題）に比べると、平均正答率が低い。

### 分析 2

#### 教科の調査結果と学校質問紙の調査結果との関係

平均通過率の高い学校は、

- 思考力・表現力の育成に焦点を当てた研修を行った。
- 「広島県教育資料」を活用した研修を行った。

### 分析 3

#### 通過率 30%未満の児童生徒の状況（通過率 30%以上の児童生徒との比較）

##### <国語>

- 小学校では「書くこと」の領域が通過率 30%以上の児童との差が最も大きく、中学校では「読むこと」の領域の差が最も大きくなっている。

##### <算数・数学>

- 小学校では「数と計算」の領域が通過率 30%以上の児童との差が最も大きく、中学校では「資料の活用」の領域の差が最も大きくなっている。

##### <理科>

- 小学校では「地球」の領域が通過率 30%以上の児童との差が最も大きく、中学校では「生物」の領域の差が最も大きくなっている。

##### <英語>

- 「書くこと」の領域が通過率 30%以上の生徒との差が最も大きくなっている。

### 分析 4

#### 質問紙調査結果の概要

- 児童生徒の意識・実態、学校の指導内容・方法は改善されているものが多い。
- 家庭学習に関する設問については、学校の指導と児童生徒の回答状況に 30 ポイント以上の差がある。

### 分析 5

#### 3年間、平均通過率が県平均以上の学校の取組

- 結論先行型で、根拠を挙げて自分の考えを述べたり書いたりする指導に重点を置いた。
- 思考力・表現力の育成に焦点を当てた研修を行った。
- 校内で推薦図書のリストを作成し、児童（生徒）に読書をすすめる取組を行った。

### 分析 6

#### タイプⅠとタイプⅡの結果の関連状況と児童生徒質問紙の調査結果との関係

<A群との回答の割合の差が5ポイント以上であり、かつA群との差が最も大きい設問>

- 小学校算数 D群：算数の授業では、自分のとき方や考え方の説明をノートに書いています。
- 中学校国語 C群：国語の授業はよく分かります。  
C群：国語の授業では、場面の様子や移り変わり、人物の気持ちを表現している言葉や文に注意しながら、物語などの文章を読んでいます。
- 中学校数学 C群：数学の授業では、問題を解くときには、前に習ったことが使えないかいつも考えています。
- 中学校理科 C群：理科の授業では、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったか考えています。
- 中学校英語 C群：英語の授業では、英語で文章を書くときは、自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、一文一文を正しく書くこととともに、文と文とのつながりに注意しています。

### 分析 7

#### 平成 24 年度「基礎・基本」定着状況調査結果と平成 25 年度全国学力・学習状況調査結果との関係～学習内容の定着状況に改善が見られる学校の取組～

- 予習や復習の仕方など、家庭学習のやり方について指導をした。

### 分析 8

#### 学力向上総合対策事業研究指定校の状況

- 指定校の平均通過率は、平成 23 年度では小中連携地域（小学校）の国語及び中中連携地域の国語が県平均を上回っていたが、平成 25 年度はすべての教科で県平均を上回っている。
- 通過率 30%未満の児童生徒の割合は、小中連携地域（中学校）のすべての教科と中中連携地域の数学・英語で減少している。